

インドネシア公立小学校視察

2008年8月

バリ島の比較的都市部にある第9 ジンバラン小学校を訪問し、英語の授業を視察して来ました。

インドネシアの学校制度は日本と同じ、6・3・3制です。大学は4年～6年位で実際は卒業するそうです。義務教育も小学校と中学校の9年間で同じです。しかし、1989年に中学校までが義務教育になり、その以前は小学校だけでした。学期は1学期が7月～12月、2学期が1月～6月です。



授業を見せていただいた小学校は公立のごく一般的な小学校です。生徒数は1年から6年までで、500人程度で、午前と午後に別れて授業をしています。午前組は7:30～12:30で、午後組は1:00～5:30（35分×7クラス）です。半日しか学校にいませんので、お弁当を持ってくる必要はありません。校庭にはガードマンの人が何人も子供の安全の為にいました。

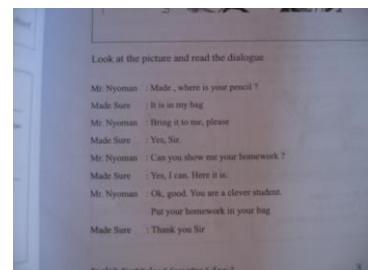
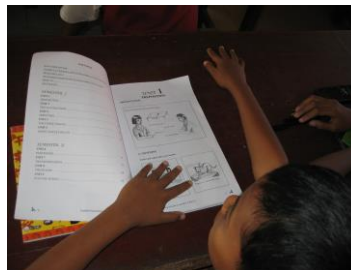
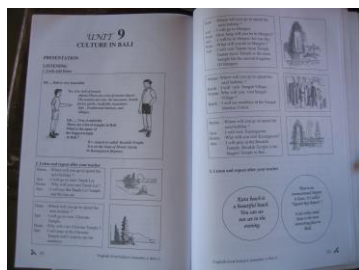


日本の小学校同様に担任の先生が全教科を教えています。この学校にはインドネシア人の英語担当の先生が一人います。今回は Desy Sundari 先生というクラス担任の先生による授業でした。教科書は国からの支給で貸し出され、2人で1冊程度を使用していました。

バリ島では、4年～6年生が週に2時間（35分×2）英語の授業を行います。1996年から始まったそうです。4年生から行っているだけあって、教科書の程度は日本の中学2年の後半位でした。

この教科書はバリの観光名所の地名やバリの文化を織り込んでありました。観光産業で持っているバリだけあり、英語にも力を入れていることがうかがえました。先生によるとインドネシア全体でもだいたい4年生から英語を始めているそうです。

アジアのいろいろな国の英語教育を視察してきて、今回も日本の小学校英語教育の遅れを感じました。教科書を全員に配布できないような財政の厳しい国でも、日本よりは進んでいます。日本もがんばらなければ！



あぜりあ Language School
校長勝山ひとみ